

【現場除雪事例：H13 北海道 4】

除雪工夫分類	B5:除雪作業の省力・効率化 / F:その他
工事種別	道路工事
工事名称	一般国道40号名寄市福德改良工事
施工場所	北海道名寄市字智恵文
工期	平成13年11月13日～平成14年3月22日
使用機材 / 機械	スコップ、スノーダンプ、布モッコ / タイヤショベル、ロータリーw=2.0m、0.45m ³ バックハウ法バケツ
現場除雪の工夫・留意点等	翌日の作業ヶ所に布モッコを敷き並べ、当日、布モッコごと吊り上げ、除雪した。タイヤショベルでの工事用道路の除雪は1往復ではすまないため、その間、資材等の搬入が遅れる。当現場では、ロータリー除雪車を用意した。



布モッコによる除雪

【現場除雪事例：H13 北海道 47】

除雪工夫分類	B5:除雪作業の省力・効率化
工事種別	道路工事
工事名称	深川留萌自動車道 北竜町美葉牛改良工事
施工場所	北海道雨竜郡北竜町美葉牛
工期	平成 13 年 9 月 20 日～平成 14 年 3 月 12 日
使用機材 / 機械	雪カキ、ノブドーザー6.8+、バックホウ 0.7m3
現場除雪の工夫・留意点等	<p>人力で集積した雪を、バックホウで搬出。作業終了後、ヒーターを設置し、養生を行い、人力除雪を最小限にするように努めている人力除雪の道具は、市販の雪かきを使用</p>



養生状況

【現場除雪事例：H13 北海道 57】

除雪工夫分類	B5:除雪作業の省力・効率化
工事種別	道路工事
工事名称	一般国道36号 白老町 虎杖浜舗装工事
施工場所	北海道白老町字虎杖浜
工期	平成13年7月27日～平成14年3月20日
使用機材/機械	スコップ、塩カル散布/モーターグレーダー3.7m級、タイヤショベル0.5m ³ 、路面ヒーター(アースドライヤー)ED-3000C 発熱量820,000kcal/h
現場除雪の工夫・留意点等	グレーダー、ショベルを併用して使い、除雪時間の短縮を図った。路面ヒーターを現場に常駐させ、除雪作業を円滑に進めた。

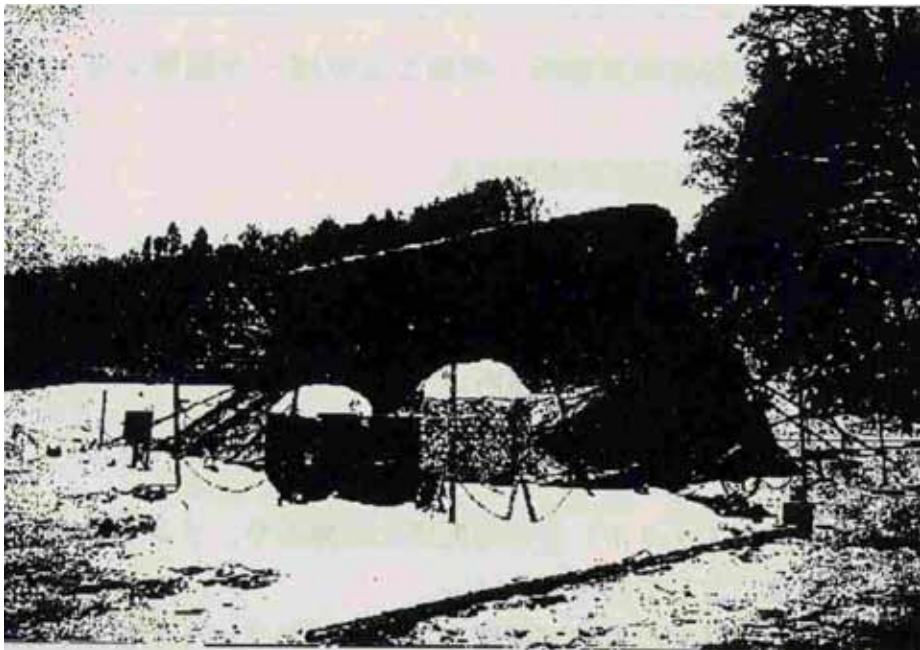
【現場除雪事例：H13 岩手県 20】

除雪工夫分類	B5:除雪作業の省力・効率化
工事種別	道路工事
工事名称	付替国道5号橋床版工工事
施工場所	岩手県盛岡市川目地内
工期	平成13年10月17日～平成14年3月26日
使用機材/機械	スコップ・竹ホウキ等
現場除雪の工夫・留意点等	当工事現場では、全て鋼桁上及び吊り足場上での作業となり、重機械を使用する除雪は不可能であるため、全て人力により除雪作業を行わなければならない。そのため、除雪作業自体を無くしてしまうため、鋼桁上に仮設の屋根を設置し(4項写真2参照)除雪による作業口スを軽減しまた、降雪中における作業効率の向上を目指した。



仮設屋根設置前、除雪状況

【現場除雪事例：H13 新潟県 34】

除雪工夫分類	B5:除雪作業の省力・効率化
工事種別	道路工事
工事名称	国改築 第5 - 1号 日290号 一般国道改築工事
施工場所	新潟県北蒲原郡黒川村大字楯江地内
工期	平成13年8月28日～平成14年3月15日
使用機材 / 機械	除雪用アルミスコップ / 0.4m ³ 級バックホウ
現場除雪の工夫・留意点等	<p>当工事ではコンクリート打設箇所に雪が入らないよう、養生設備を設けた。単管パイプで養生枠を建込みブルーシートで囲い結束する。ジェットヒーターを内部に設置し気温の低下による凍結防止をする。溶かした雪を水中ポンプにて吸い上げその水を高圧ポンプで躯体内にある雪を溶かすのに利用する。</p>
	
<p>養生設備全景</p>	

【現場除雪事例：H13 石川県2】

除雪工夫分類	B5:除雪作業の省力・効率化
工事種別	道路工事
工事名称	主要地方道金沢・井波線 いしかわ広域交流幹線軸道路整備工事(二俣2号橋下部工その2)
施工場所	石川県金沢市二俣町地内
工期	平成13年11月2日～平成14年3月29日
使用機材/機械	スコップ/タイヤショベル 1.6m ³ 、バックホウ 0.4m ³
現場除雪の工夫・留意点等	工所用仮設道路について沢の流水をパイプで誘導し一部、消雪に利用した。



タイヤショベル除雪状況

【現場除雪事例：H13 北海道 142】

除雪工夫分類	B5:除雪作業の省力・効率化 / D1:構造物への配慮
工事種別	道路工事
工事名称	一般国道334号斜里町真鯉舗装工事
施工場所	北海道斜里郡斜里町真鯉
工期	平成13年3月1日～平成14年2月13日
使用機材 / 機械	タイヤショベル0.6・級、モーターグレーダー3.7m級
現場除雪の工夫・留意点等	<p>積雪した場合は、施工の作業範囲を狭めてから部分的に分割して除雪しました。（除雪しても又、積雪した場合、2度手間にならない様に。） 工事施工の直前まで除雪しないでいた箇所へは工事車両や作業車の立ち入りをなるべく控え、圧雪させない様にしました。施工範囲が狭いため、機械施工で除雪を行うと施工済み構造物の破損や、路盤面、舗装面を損傷する恐れがあったので、主に人力にて集雪した後、排雪する際に、タイヤショベル及びバックホウにて、ダンプトラックに積み込む様にしました。区画線を施工した際には、広域に舗装面を露出させる必要があったので、モーターグレーダーにて除雪した後、路盤面ヒーターにて乾燥させました。結氷路盤面等を融雪・解氷乾燥させる為に、路面ヒーターを現場に常駐させ、常時使用しました。</p>
	